

## 「ありがとう」に想いをのせて

熊本県立阿蘇中央高等学校 社会福祉科

3年 松野 愛生

## I はじめに

私が福祉を学びたいと思ったきっかけは、病気がちな祖父母の助けになりたいと思ったからです。それぞれ持病があった祖父母が、日常生活を少しでも過ごしやすくと感じてくれるような支援を学びたいと思い、社会福祉科のある高校へ進学しました。

1年次の私は、利用者様と会話をしても一方通行で、うまくコミュニケーションを取ることができませんでした。本当は楽しいはずの会話がいつか苦手意識を持ち、自信を無くしたまま、消極的になっている自分がいました。2年次実習ではそんな自分を変え、利用者様と心から楽しめる会話がしたいと、実習前に様々な話題や昔の歌、レクリエーションなどを調べ、自分なりの準備をして臨みました。実習先も地域密着型介護老人福祉施設へと変わり、初めての環境の中で利用者様との関係を築いていけるのか、とても不安でいっぱいでした。しかし、実習が始まると予想以上に利用者様との会話が楽しく、日を重ねるごとにその不安は解けていきました。利用者様も私の名前を覚えてくださり、「あいちゃんこれ手伝って」や「あいちゃん頼むわ」など頼ってもらえる心地よさを実感しました。また、利用者様への介助を行うにあたって、利用者様と介護職との信頼関係はとても重要であることを学びました。実習指導の方から、「もし自分が家族以外の他人から排泄介助をしてもらうとしたらどんな気持ちにな

ると思う」と問われたとき、ハッとしました。自分だったら申し訳ない気持ちや恥ずかしい気持ちがあると感じ、どんな介助であっても利用者様の立場に立って「もし自分が同じ立場だったら」と考えることが大切であると学びました。

先日、高校生活の集大成となる1カ月間の長期実習を2年次と同じ施設で実施させていただきました。今回の実習では介護過程の実施を大きな目標とし、受け持ちの利用者様を決め、その方のアセスメント・介護計画の立案・実施・評価を行う過程の中で、より良い介護のあり方を考えてきました。今回の実習を通して、私が目指すべき介護福祉士像が見えてきたように感じます。

## II A様の想いに寄り添う

3年次の実習を通して担当させていただいた利用者様（以下A様）は2年次実習の時から関わらせていただいていたいました。2年次の実習から半年以上が経過し、久しぶりにお会いしたものの、「あいちゃん久しぶりやのう」と覚えてくださっており、ユニットのみなさんも温かく迎えてくださいました。A様の計画立案に当たってコミュニケーションの時間を多く取り、様々な情報を聞き出しながらA様の想いに寄り添う支援のあり方を模索する日々が始まりました。A様は脳出血の後遺症により左片麻痺があり、認知症も徐々に進行している現状で、自

分の思うように身体を動かすことができないジレンマも抱えていらっしやいました。以前は身体を動かすことがお好きで、ソフトボールやゲートボールなど地域の大会にも参加され活躍されていたことから、身体を動かしながらA様の潜在能力を活かすことができないかと考えました。今回の実習期間中は東京オリンピックが開催されており、連日テレビの前には利用者様が集まりみなさんで応援をされていました。その中でも、人一倍熱い応援をされているA様。そんなA様を見ているとあることを思いつきました。それは、この施設内で利用者様が主役となった施設内オリンピックを開催できないかということです。もともとA様は、手や足を使った運動をしたいという想いがあったため、A様と相談しながら「ピンポン玉入れ」競技を考えました。通常の玉入れのように高さのあるカゴに玉を入れるのではなく、床に牛乳パックを切ったものを並べそれをカゴに見立ててピンポン玉を投げ点数を競うため、麻痺や障害のある利用者様でも楽しんでいただけるような工夫を行いました。また、この競技では、手の握力強化と筋力維持に加え、可動域を広げる効果も期待でき、A様の潜在能力を活かすことにも繋がると考えました。さらに、施設内オリンピックに向けて介護計画を立案することで、A様の意欲も向上するのではないかと考え、競技の練習も計画に取り入れることにしました。玉入れに使う道具の作成から、貼り絵などの装飾までA様と一緒に行いました。玉入れの練習に加え、体力維持のために、グーパー運動や足あげ運動、手すりを使って立位の練習なども行い、目標回数に達することができたら一緒にカレンダーに一シールを貼っていきました。約1週間の練習期間を経て、いよいよ施設内オリンピック当日を迎えました。会場は国旗の飾り付けや得点板など、実際のオリンピックに少しでも近づけるような工夫を行いました。ユニットの他の利用者様も参加していただき、約10名の参加者で実施しました。A様は開会式で選手宣誓され「頑張るぞ」と

いうお気持ちが伝わってきました。その後は準備体操も入念におこない、競技を開始しました。A様は、自分の出番が来るまで緊張されていましたが、これまでの練習の甲斐あって見事、高得点を叩き出し、団体戦・個人戦ともに優勝することができました。A様自身、自分が優勝したことに驚かれています様子でしたが、手作りの優勝トロフィーと賞状をお渡しした際は、とても喜ばれ「あいちゃんありがとうね」と言ってくれました。介護計画の立案や施設内オリンピックの準備は大変でしたが、A様からの感謝の気持ちをお聞きし、私自身とても幸せな気持ちになりました。今回の実習を通して、多くの利用者様から「ありがとう」のお言葉をいただきました。様々な介護業務がある中で、いかに利用者理解を深め利用者様と信頼関係を築くことができるか、このことが介護の幅を広げることができる鍵となることを学びました。また、A様との関わりから想いに寄り添いながら、その想いをどのようなかたちで実現させるのか、試行錯誤を繰り返しながら答えを探していく経験をさせていただき、介護のやりがいを感じることができました。

### Ⅲ 将来に向けて

この社会福祉科へ入学し、多くの利用者様や地域の方々、小中学生と出会うことができました。それぞれの個性、価値観、人生観に触れ、感情が揺さぶられる経験を味わい、世界観をぐっと広げることができました。これらの出会いを通して、人と関わり、人に希望を与え、人生に寄り添うことのできる福祉の仕事に今、とても魅力を感じています。将来は、介護福祉士として地域の介護老人福祉施設へ就職し地域に貢献できる人材になれるよう努力していきたいと思います。

私に福祉を学ぶきっかけを作ってくれた祖父母は、2人とも天国へと旅立ってしまいましたが、祖父母への想いをのせて、これから出会う多くの利用者様に「あいちゃんがいてくれてよかったわ」と言

っていただけるような介護福祉士を目指していきます。